

## 2 . 要 約

本調査団は、2000年11月6日から同17日までの日程でアルゼンティン共和国を訪問し、「アルゼンティン・ラ・プラタ大学獣医学部研究計画」のアフターケアに係る調査・協議を行った。その結果、終了後4年半余を経たプロジェクトは、人的にも財政的にも自助努力の成果が認められた。このため、2001年4月1日から2年間にわたってアフターケア協力を行うことで合意し、ミニッツ( 付属資料1 . )の署名を取り交わした。

アフターケア協力の概要は、以下のとおりである。

### (1) 協力活動

国立ラ・プラタ大学獣医学部のうち内科学、外科学、家畜病院( 大動物臨床、小動物臨床 )、臨床繁殖学、臨床病理学、放射線学、チャスコムス診断研究センター( CEDIVE )の各臨床分野講座において、臨床診断技術の改善に関する研究技術を指導するとともに、家畜疾病の予防と治療に対する診断技術の応用に関する研究技術指導を行い、フィールドへの応用をめざす。

### (2) 協力課題

以下のとおりであるが、長期専門家によって修正・追加される予定。

#### 1) 臨床診断技術の改善

血液・血液化学的検査法

眼科的診断法

画像診断法

病理組織学的検査法

#### 2) 家畜疾病の予防と治療に対する診断技術の応用

寄生虫・原虫感染症

細菌感染症

ウイルス感染症

### (3) 投 入

1) 日本側：臨床診断技術の長期専門家1名のほか、短期専門家を年間数名( 画像診断、臨床病理学等 )を派遣し、カウンターパートの日本研修を年間数名( 臨床獣医学、診断技術等 )受け入れる。機材供与は、基本的に複数の講座で共通して利用できる機材を、優先順位の高いものから供与する。

2) アルゼンティン側：カウンターパートの配置、アフターケア実施に必要な施設・建物の

供与、ローカルコストの負担。

(4) 実施体制

ラ・プラタ大学学長をプロジェクトダイレクター、獣医学部長をプロジェクトマネージャーとするほか、獣医学部副学部長をプロジェクトコーディネーターとして、講座間の連携強化を図る。

(5) その他

- 1) 臨床診断技術移転のため、アフターケア期間内に限って日本人専門家がアルゼンティン国内で診療行為をできるよう、了承を得て、ミニッツに記載した。
- 2) カウンターパート日本研修の候補者選定のため、各関連講座3名ずつの候補者面接を行ったほか、文部省国費留学生特別枠制度( JICA枠 )に基づく大学院博士課程入学候補者についても、ラ・プラタ大学側の要望を聞いた。